

## 平成19年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：ダイズ害虫（ハスモンヨトウ 2、カメムシ類 2、フタスジヒメハムシ 2）

平成19年9月18日  
鳥取県病害虫防除所

### 1 情報の内容

9月11～12日に行った県内巡回調査の結果は表のとおりであった。

カメムシ類の発生が平年より多いので、8月下旬～9月上旬にカメムシ類の防除を行っていないほ場では、ただちに防除を行う。

ハスモンヨトウの発生は平年より少ないが、今後、被害が増加することも予想されるため、注意が必要である。

また、フタスジヒメハムシについては、発生ほ場率は平年並であるが、一部多発ほ場が見られるので、発生が多い場合は防除を行う。

### 2 カメムシ類

#### (1) 発生状況

ア 9月12日現在、ほ場ではホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシの発生がみられる。発生の主体は、成虫と若齢幼虫である。

イ 発生ほ場率は72.7%（平年：43.0%）、25株当たり平均成幼虫数は2.1頭（平年：0.9頭）であり、平年より発生が多い(表)。

#### (2) 防除上注意すべき事項

ア 8月下旬～9月上旬にカメムシ類の防除を行っていないほ場では、ただちに防除を行う。

イ 8月下旬～9月上旬にカメムシ類の防除を行ったほ場においても、今後の発生状況に注意し、発生が多い場合は追加防除を行う。

### 3 ハスモンヨトウ

#### (1) 発生状況

ア 9月12日現在、発生ほ場率は82.1%（平年：91.7%）と平年並の発生であるが、1a当たりの平均白変か所数は1.4か所（平年：3.7か所）であり、平年より発生が少ない(表)。

イ 発生の主体は、若齢～中齢幼虫であるが、一部ほ場では老齢幼虫が混在している。

#### (2) 防除上注意すべき事項

ア 若齢幼虫の加害によって発生する白変葉の早期発見に努める。発生初期の場合、葉の切除などの捕殺を行うか、トレボン粉剤DL、エルサン粉剤3DLなどでスポット散布を行う。

イ 防除の目安は、1アール当たりの白変か所数5ヶ所以上とする。

ウ 若齢幼虫に対する上記粉剤の効果は高いが、齢期が進むと防除効果が劣るため防除適期を失しないようにする。なお、中～老齢幼虫が混在する場合はロムダン粉剤DL、ミミックジョーカー粉剤DL、マトリックジョーカー粉剤DL等を散布すると比較的效果が高い。

### 4 フタスジヒメハムシ

#### (1) 発生状況

ア 9月12日現在、発生ほ場率は93.9%（平年：85.2%）、25株当たり平均成虫数は76.3頭（平年：65.2頭）と、平年並の発生である(表)。

イ 一部の地域では多発ほ場が散見されるので、注意が必要である。

#### (2) 防除上注意すべき事項

発生が多い場合、防除指針等を参考に防除を行う。

表 ダイズ害虫の発生状況

市町村	地点	ほ場数	カメムシ類	ハスモンヨトウ	フタスジヒメハムシ
			成幼虫数/25株	白変か所数/a	成虫数/25株
鳥取市	中大路	3	1.0	1.5	8.3
国府町	玉鉾	3	3.7	2.0	4.7
気高町	土居	3	3.3	1.0	26.0
河原町	佐貫	3	1.7	2.7	120.0
岩美町	岩常	3	1.7	4.3	120.7
倉吉市	中江	3	-	2.3	-
関金町	安歩	3	2.7	0.2	35.3
湯梨浜町	長和田	3	-	1.3	-
北栄町	原	3	1.7	0.3	2.3
米子市	春日	3	0.3	0.8	115.3
日吉津村	富吉	3	0.3	0.7	72.3
南部町	福成	3	2.3	1.0	15.0
大山町	坊領	3	4.7	0.6	319.7
H 1 9 年平均			2.1(0.9)	1.4(3.7)	76.3(65.2)

注) 数値は各地の平均値。( )内は平年値。